# 第７回　トラック輸送における取引環境・
# 労働時間改善岡山県地方協議会《議事概要》

平成 29 年 11 月 15 日(水) 14:00～16:00
岡山県トラック総合研修会館「202 研修室」

１．開会

２．出席者紹介（委員名簿及び出席者名簿による紹介）
小野委員欠席、近藤委員欠席、佐藤委員欠席、小郷委員欠席、生藤委員欠席

３．議題
（１）働き方改革をめぐる動きについて
［資料１に基づき説明（岡山労働局）］～略～

【林田委員】
・５年後に時間外労働時間の上限規制（年間９６０時間）を導入するとあるが、現在の運送業界における時間外労働時間も年間９６０時間程度ではないのか。
・労働局へ三六協定を提出する際、月８０時間にするよう指導を受けるため、現在も９６０時間程度しか行えないように思える。

【事務局】
・現在の改善基準告示では年間の拘束時間は３５１６時間となっている。
そこから年間の法定労働時間である２０８５時間と所定休憩時間の約２５０時間を差し引くと、現状では年間１２００時間程度の時間外労働は可能である。

【林田委員】
・月８０時間にするようにするのはあくまで指導か。

【事務局】
・指導の範囲である。月８０時間を超える時間外労働は健康面からみても問題があるので、できるだけ８０時間以内とするよう指導しているものである。

【林田委員】
・改善基準告示の拘束時間が月間２９３時間であるため、時間外労働は月間８０時間と指導されると受け止めているが、現在は上限なしということでよろしいか。

【事務局】
・現在は改善基準告示の範囲内でお願いしたい。

【有利座長】
・運送業におけるドライバー不足について、現在の岡山県の状況がわかれば教えてほしい。

【事務局】
・平成２９年９月時点の岡山県の職業別有効求人倍率によると、職業全体の１．６１倍に対して自動車運転に関しては３．３８倍となっている。なお、同時期における全国の自動車運転の有効求人倍率は２．８０倍となっており、岡山県は全国の中でもドライバーが不足している状況である。

**（２）中央協議会について**
［資料２に基づき説明（岡山運輸支局）］～略～

【岡田委員（岡山運輸支局長）】
・荷主要請行動として、７月２８日に、運輸支局、労働局、トラック協会が協議会事務局として、県内の食料品の配送センターを持つ会社を訪問した。
・「運送事業者の現状」と「この協議会の趣旨と活動内容」の説明を行い、訪問の趣旨の理解を頂いた。
・荷主企業が中小零細企業からの交渉に対して「荷主企業として何か協力できることはないか」という視点から、話だけでも聞くことが出来る環境にして頂きたい旨を依頼した。

【西田岡山県トラック協会専務理事】
・７月に荷主勧告制度が見直されたが、当制度が新たな運用になって以来、勧告や要請に至った事案はあるか。

【事務局】
・勧告や要請に至った事案は今のところ無い。

【西田岡山県トラック協会専務理事】
・約款制度改正の説明会を行ったが、全事業者が説明会に来たわけではないので、期限までに認可申請や届出にかかる手続きをしない事業者が出てくることが懸念されるが、運輸局は対応をどう考えているか。

【事務局】
・約款の手続きについて、未提出事業者はこちらで把握している。期限は平成２９年１２月４日となっているが、期限が近付いたら提出を促していく予定である。

【林田委員】
・約款制度改正に伴う手続きを行わない事業者もあると思う。
・パイロット事業の好事例として、（有）早川運輸が５時間半の拘束時間を削減したとされているが、以前から改善の余地があったのではないか。
・労働生産性向上について、ダブル連結トラックの導入促進を進めていることは良いことだと思うが、これらの車両やトレーラーが走れるところは限られている。
・トレーラーが郊外を走ると、道路管理者から積載量について注意を受ける。関係各所で連携を取り、ダブル連結トラックやトレーラーが走りやすい環境を作って頂きたい。

【事務局】
・（有）早川運輸の事例に関しては、荷主の協力の下、拘束時間を短縮させたい運送事業者と、荷主の利害が一致したケースとして発表されており、一つのモデルケースとして捉えて頂きたい。
・ダブル連結トラックに関しては、トライアルで行っている取り組みであるため、すぐに答えが出るものではないが、道路環境等の外的要因については他機関に向けて意見等を挙げていきたい。

【有利座長】
・パイロット事業等の中でも対応策等を探っていくことが大切である。

**（３）平成 29 年度パイロット事業について**
［資料３に基づき説明（(株）日通総合研究所)］～略～

【有利座長】
・発着荷主側において待ち時間は発生しているのか。発生している場合、場所はどこで発生しているか。

【（株）日通総合研究所佐藤氏】
・基本的には待ち時間は発生していない。

【有利座長】
・多面的にチェックをして頂いており、成果が上がっていると思うが、運転手個人へヒアリングを実施してもらいたい。具体的な問題把握に繋がると思う。

【（株）日通総合研究所佐藤氏】
・様々な視点からドライバーの声も聞いていきたい。例えば、パレット化について、運転手は楽になる反面、パレット荷役と手荷役にて荷物の混載を行わなければならないため、どのような声があがるか確認したい。

【クリナップロジスティクス（株）　稲林氏、森藤氏：オブザーバー】
・当社ではドライバーにヒアリングを行っている。第三者の視点でヒアリングを行って頂きたい。

【有利座長】
・パレットのサイズは様々であると思うが、パレットの積み方は形状や作業の仕方を考えて工夫は出来るか。

【（株）日通総合研究所佐藤氏】
・パレットの形状の規格は古くて新しい話である。パレットの形状は様々なサイズが規格されており、使われている。
・商品が大きく、パレットに合わせた商品設計は難しい。
・また、パレットの返却にかかる費用は荷主と運送会社どちらが負担するかも問題になる。

【有利座長】
・コスト計算はしているか。

【（株）日通総合研究所佐藤氏】
・今回のトライアルに関しては（株）クリナップロジスティクス負担となっている。

【有利座長】
・費用に関する面も最終報告に記載頂きたい。

【林田委員】
・休憩時間が確保されていない乗務が見受けられるが大丈夫なのか。

【（株）日通総合研究所佐藤氏】
・確認した上で休憩時間の確保に努めていきたい。

【須山委員】
・パレット輸送について、破損を防ぐために養生するそうだが、実際に破損頻度はどの程度であるか。破損の基準はあるのか。

【（株）クリナップロジスティクス森藤氏】
・破損の基準は設けていない。相手先へ届けられるものかどうかで判断している。
・今回のパイロット事業の対象となるルートにおける商品の破損等はほとんどない。

【佐々木岡山労働局労働基準部長（労働局長代理）】
・荷物の重さはどのくらいなのか。手荷役となると腰痛等の問題が起きることがあるが。

【（株）日通総合研究所佐藤氏】
・３０～３５ｋｇとなっている。これを重いと感じるかはドライバー個人の感覚によるので一概に判断はできない。

【佐々木岡山労働局労働基準部長（労働局長代理）】
・そもそも、パレットで運ばないとだめなのか。

【有利座長】
・事業者へのヒアリングにより確認して頂きたい。

【八澤中国運輸局自動車交通部次長（中国運輸局長代理）】
・短期間でパイロット事業の取り組みを行って頂いており、感謝する。
・休息時間の確保は荷主の協力が必要となる。引き続き協力を願いたい。

【有利座長】
・ドライバーについては、女性や高齢者が働きやすいシステムが必要である。難しいと思うが取り組んでいってもらいたい。

（４）その他

【事務局】

・次回協議会は３月頃を予定している。正式な日程等は追って連絡する。

４．閉会